

MAG021-13

会場: 201A

時間: 5月26日13:45-14:00

産総研第3期中期計画での地中貯留研究について

On the Geological Storage Study at the AIST 3rd research phase

中尾 信典^{1*}, 當舎 利行¹

Shinsuke Nakao^{1*}, Toshiyuki Tosha¹

¹産総研

¹AIST

平成22年度から、5年ごとに設定されている産総研の第3期中期計画が開始される。第3期では、CO₂地中貯留は、以下のように計画を設定している。本講演では、産総研第3期におけるCO₂地中貯留研究について概論する。

CO₂地中貯留において、CO₂の安全かつ長期間にわたる貯留を保証するための技術を開発し、早期の実用化に寄与する。大規模CO₂地中貯留については、複数の物理探査手法を組み合わせた効率的なモニタリング技術の開発、CO₂の長期挙動予測に不可欠である地下モデルの作成や精緻化を支援する技術、及び長期間にわたる地層内でのCO₂の安定性を評価する技術を開発する。また、圧入終了後における長期間監視の為に費用対効果の高いモニタリング技術や、我が国での実用化に当たって考慮すべき断層などの地質構造に対応した地下モデリング技術の開発を図るとともに、CO₂が地中に貯留されるメカニズムの定量的解析や、各地における貯留ポテンシャル評価等の共通・汎用性の高い基盤技術の確立を図る。さらに、技術信頼構築の為に安全性評価技術や中小規模排出源からの排出に対応した地中貯留の基礎研究を実施し、長期的な気候変動対策のオプションとしての可能性を探る。

キーワード: CCS, 二酸化炭素, 地中貯留, モデリング, モニタリング

Keywords: CCS, CO₂, Geological Storage, Modeling, Monitoring